

平成27年度 第2回企画委員会（議事要旨）

日 時：平成28年1月13日（水）13:00～14:30

場 所：福井県庁6階 大会議室

出席委員：野村委員長、高井副委員長、豊嶋委員、井上委員、畠中委員、吉川（守）委員、上野委員、竹内委員（代理出席）、皆川委員、大下委員、中野委員、林委員、福嶋委員、田辺委員（代理出席）

事務局：福井県安全環境部環境政策課、循環社会推進課、自然環境課

議事概要

議題について事務局より説明の後、委員による自由討論。主な意見は以下のとおり。

○議題

（1）平成27年度事業進捗について

【委員】

COP21において、産業革命からの気温上昇を2度未満に抑えることが目標とされたが、協議会としてどう考えているか。

【事務局】

目標は大変高いものと考えている。今後、6月の伊勢志摩サミットまでに国が対策を示すと聞いている。国の対策を踏まえ、長期的な目標および中長期的な目標を立てることが大事であると考える。

（2）平成28年度事業案について

【委員】

企業のCSRを支援するため、企業へのヒアリングが大切であると考えている。CSRは環境分野だけではないため、環境をとりまく社会分野も含めて支援してはどうか。企業からの寄付が、県内の子ども達の育成や環境行政に役立っていること見える化する仕組みが必要。

【委員】

企業や協働組合等の主体によってCSRについての考え方も違ってくるため、企業へのヒアリングは必要。CSRは企業が果たすべき責任であり、その重要性

は広く認知されてきたと感じている。

【委 員】

企業のCSRがNPOとの連携によって実現できれば、NPOの力もつき、活動の幅も広がると思う。また、今回作成した「ふくいっ子に体験してほしい50の自然体験」（以下、ガイドブック）は実践していくことが重要である。子どもの自然体験がどこまで進んだか確認していく必要がある。

【委 員】

福井市環境推進会議では、企業や団体等からの寄付によりエネルギー関係や環境学習等幅広い事業を行っている。具体的な事業の支援を企業に提案し、賛同してくれる複数の企業に出資してもらう形で事業を進めている。

【事務局】

協議会においても提案に賛同してもらえる企業と一緒に事業を進めていきたい。

【委 員】

ガイドブックの内容は大変すばらしく、28年度はガイドブックを活かすことが大切。自然保全団体同士が協働してガイドブックの内容を実施できればよいと思う。

【委 員】

ガイドブックを広めていくことが大切。県内で自然体験ができる団体が、ガイドブックのどの体験を担っていくのかを把握し、発信できるとよい。

【事務局】

今後対応していきたい。

【委 員】

子どもの年齢が年中から小学校中学年までの保護者は自然環境に意識が高いように思う。その保護者向けにガイドブックをPRしてはどうか。

【委 員】

ガイドブックを活用するために、豊富な体験、知恵やコミュニティの力を持っている70歳代以上の世代の力を借りるとよい。また、世代間交流がある公民館も活用するとよい。

【委 員】

ガイドブックの体験は親子で体験できるのでよい。また、協議会で古着を集めた売上を協議会の活用経費に充てるような仕組み作りができるとよい。

【委 員】

小学校の先生、保育士など子ども達を指導していく立場の人達への環境教育も大事。また、公園に行って木の実を拾うだけでも自然体験になるということを広め、自然体験へのハードルが下がるとよい。

【事務局】

ガイドブックは今後、県内の保育園・幼稚園および28年度の新小学校一年生に配布予定。ガイドブックの周知や活用方法については今後検討していく。企業においても社員向けの環境教育の参考になるのではないかと思っている。

(3) 環境フェアについて

【委 員】

里山里海湖研究所と連携できるとよい。

【委 員】

環境フェアの中で親子で楽しめるガイドブックの体験ができるとよい。

以上